

Azure Databricksの採用により、 急拡大するリテールメディア分野でさらなる躍進。



アドインテは、「Webとリアル融合で新しい価値を創造し、すべてのユーザーに新しい気づきを新しい気づきですべてのユーザーを幸福に」を事業ビジョンに掲げ2009年に創業された、流通小売DX支援事業を行う企業である。

AIやIoTの浸透によってサイバーとフィジカルの世界がより統合されていく現代において、小売業における大きなトレンドの1つとして、「リテールメディア」が注目を集めている。これは、文字通り、リテールのメディア化を意味し、小売企業が持つ消費者とのチャネルをメディア化することである。これにより、小売企業、ブランド企業、消費者にそれぞれに様々なメリットを提供する。世界的な個人情報管理の厳格化と、関連するCookie規制などが進む昨今において、ブランド企業にとって新たな消費者へのリーチ方法の模索が急務とされていることも、追い風となっている。

アドインテは、リアル店舗に設置されたIoT端末から得たリアルなデータを元に、店舗の集客率の向上や、デジタル戦略の改善に従事している。具体的には、ID-POSの情報や、独自に開発したIoT端末「AI Beacon」を活用し、店舗内での導線/滞留情報などの消費者のリアルの行動履歴から、消費者にテラーメイドされた広告を配信することで、小売店に対しては新たな収益源を提供し、そしてブランドには、効率的な広告配信とその費用対効果の可視化が可能となる。アドインテは、この「リテールメディア」という新たな分野のリーディングカンパニーの1つであり、流通決済総額6兆7000億円を超える国内最大級のリテールメディアプラットフォームである。



副社長兼COO
稲森 学 氏



開発マネージャー
藤崎 史郎 氏

ソリューション

ハイライト

**Sparkベースの
分散処理
フレームワークにより
大量の並行処理が
可能に!**

**データ分析にかかる
時間が従来の
4~6時間から
1時間に大幅短縮!**

**常時4人のエンジニアと
営業担当が
設計・導入・運用まで
手厚く支援!**

課題

毎月約100億件に及ぶデータ処理。

従来のデータ基盤では、分析結果を出力するだけで4~6時間のタイムロスが発生。

巨大なDMP/CDPを支えるためには、データ基盤にも相応の規模とパフォーマンスが求められる。先述のAI Beaconは現在、国内で約8000台稼働しており、1日あたり約3億件のデータを生成している。また、ID-POSのデータが1月あたり約2億件加わるため、毎月約100億件のデータを処理する必

要がある。従来のデータ基盤では、必要な処理がタイムリーに行うことが不可能であり、分析結果を一つ出力するだけで4~6時間かかっていた。時には、1つのレポートを作成するだけで、プロセスが落ちてしまうこともあったという。

採用理由

大量データの並行処理が可能となり、分析時間が1/4~1/6に短縮。
担当チームの手厚い支援も導入の決め手。

このパフォーマンスの問題を解決するために、Azure Databricksの採用を決めた。Sparkベースの分散処理フレームワークにより、大量データの並行処理が可能となり、分析にかかる時間が1時間以内にまで短縮できた。また、Azure Databricks担当チームの手厚い導入支援も高く評価をしてい

る。プラットフォームの移行には、相応の工数と見えないリクスを抱えるが、常に4人のエンジニアと1名の営業担当者が、設計、導入、運用に至る全てのフェーズにおいて、必要な支援を提供した。

今後の期待

より高度な機械学習の機能を活用したデータ分析を武器に、「リテールメディア」という新たな市場での躍進を目指している。

DMP/CDPにおける今後の展望としては、複数の小売企業のデータをシングルプラットフォーム上に統合することを予定している。また、より高度な機械学習の機能を活用したデータ分

析の手法の模索も検討している。アドインテは、急拡大する「リテールメディア」という新たな市場において、さらなる躍進を目指している。

システム概略図

